

文芸コーナー

菊水短歌会

なじみの道木漏れ日受けて通りゆく
明暗感じ先に光あり
紺碧の秋空たかし白い雲
ゆめの動画よ象ふつつ
真夏日にたらいの水もいい温度
全身シャンプー満足の猫
異常気象によくぞ育ちし黄金波
励まし守りし彼岸花の列
破れそうパズルの間の真つ黒に
時計は遙か定時越しゐる
ゆく夏のさよならの如火の花を
ほたりほたりと捨てゆくカンナ

坂本 竹子
荒木 智子
阪野 章子
坂口志げ子
池田たかお
東 左千子

かなしき原俳句会

ランナーの里駆け抜ける小春かな
登りたる奇岩の上や天高し
降りさうで晴れて来さうで時雨雲
つる引けばむかごこぼれて我を打つ

淑 乃
康 子
弘 子
淑

一献を傾くる間の秋の暮
末枯や三日続きの計の報せ
今年酒贈りて友の声を聴く
花石路や旅の疲れの癒やさるる

誠 一
貞 子
明
しん子

菊水俳句会

黄昏や銀杏黄葉の仄明かし
指をおり秋の夜長に友思ふ
山里や今宵はグルメ零余子飯
野に山に秋の声さく散歩かな
母の声聞けぬ日々かなちろ鳴く

永田 紘彦
原 かよ子
池田 松子
中山ミサト
宮中 康雄

肥後狂句

見る見る内 育ち盛りの釜のめし
見る見る内 自然破壊にや歯がたたん
見る見る内 危険度越えて魔の水位
ぶきつちよう おとうと弟子にうつちよかれ
ぶきつちよう 修理どころか元もなく
ぶきつちよう 俺に一寸貸してみれ
そうはいかん 女子の勘は見逃さん
そうはいかん 上には上ん居んなはる
そうはいかん 嫁はポックリ望どるが

石原かわせみ
福永すみれ
井上りんどう
二瀬 桔梗
後藤 撫子
池田 茜
瀬上 歌子
高木せいや
庄山 道草

人権の窓 33



和水町人権教育指導員 緒方 正雄
岡中央公民館 ☎0968・86・2022

ハンセン病問題(中)

「偏見や差別はどのようにして作られたのでしょうか」

江戸時代までのハンセン病患者は、下級宗教者としての法名を持ち、勧進を生業として神社や仏閣近くで暮らしていました。当時の人々は、夫婦感染もほとんどなく、ハンセン病自体に「うつる」という認識はなく、村社会から排除される差別には至りませんでした。

差別が決定的になったのは、明治になり、ハンセン病対策を全く行っていなかった政府が、諸外国から「それでも文明国か」と非難され、放浪患者は日本の恥として、明治の終わりに、ハンセン病患者の取り締まりを始めてからです。当初は家を出て放浪している患者のみが施設に収容されましたが、昭和6年には、「癩予防法」を成立させ、全ての患者の強制収容と、完全隔離に踏み切りました。

「恐ろしい伝染病」という誤った認識を植え付け、それが偏見や差別を助長していったのです。

昭和21年、ハンセン病の特効薬プロミンが発見され、ハンセン病は薬で治る病気になりました。しかも感染力も極めて弱く、薬で完全に治る病気であることが明らかになると、国際的にも隔離政策は人権侵害とされ、世界各国では隔離政策を廃止し、外来治療に移行しました。どんな病気でも病気を治すために入院し、治療して病気がよくなれば、退院するのが当たり前のことです。ところが、なぜか日本では昭和28年、旧法の隔離政策をさらに強化し、継続させる「らい予防法」を新たに成立させ、完治した入所者の終生の強制収容を続けたのです。

この「らい予防法」は、平成8年によりやく廃止になりました。しかし、約90年にも及ぶ隔離政策は、入所者の方々に、「親や兄弟と一緒に暮らせない」「実名を名乗れない」「結婚しても子どもを産めない」「一生療養所から出て暮らせない」「死んでも故郷の墓に埋葬してもらえない」：等々、私たちの想像を超える苦悩を長い間強いてきたのです。

図書室紹介

中央公民館図書室だより

今年度も、前原区の前垣芳郎さんに、大型絵本と紙芝居を町公民館図書室に寄贈していただきました。保育園や学校での読み聞かせ、その他の集まりなどにどうぞ活用ください!!

100にんのサンタクロース

著者：谷口 智則、株式会社・文溪堂



クリスマスまでには、準備がたかさん。春・夏・秋・冬：一年中サンタさんは大忙し。みんなで力を合わせて、今年もクリスマスプレゼントを世界中の子どもたちに届けます！個性あふれる100人のサンタさん。みんなで楽しめる大型絵本です。

昭和の窓

脚本・絵：やべ みつり、株式会社・雲母書房



昭和の時代の懐かしい品物が次々と出てくる紙芝居です。穴あきのしかけからのぞく品物が何かを考えながら、みんなで楽しむことができる紙芝居です。昭和の時代を知る人たちの集まりにぜひ！

リサイクルプラザつうしん

12月リサイクル体験受講者募集

申込先：クリーンパークファイブ
住所：玉名郡長洲町大字名石浜42番地1
☎0968・78・4433



日	とき	講座名	講師名	募集人員	募集期間	準備するもの
①13日(金) ②16日(月) ③20日(金)	午前9時30分 ～午後4時	「古布で作る にぎやかバッグ」 ※連続3回講座	古 千代氏	10人	電話受付 2日(月) 午前9時 ～10日(火) 午後4時 希望者多数の場合の抽選日	①裁縫道具 ②黒色のミシン糸 ③赤色と黒色の手縫い糸 ④刺し子針 ⑤材料費：6,000円
					11日(水) 午前10時	

受付方法 電話で受け付けを行い、受講希望者が多い場合は抽選となります。その場合は、電話で連絡しますので必ず受付時、連絡の取れる電話番号をお願いします。お気軽にお申し込みください。